

お蔵出し新収集品展

井上素子

コンセプト

当館は平成18年に「埼玉県立自然の博物館」と名称を変え再スタートしました。今回はその時以来収蔵した標本を展示します。

博物館には、大きく分けて「収集・保管」、「調査・研究」、「展示・教育普及」の3つの役割がありますが、ほとんどの方が3つめの「展示・教育普及」の役割しか知りません。たとえ標本を保管していることを知っていても、「展覧会(=企画展)」のためと思っている方も多いようです。

しかし、博物館の3本柱の中で、1つめの「収集・保管」こそ、博物館の根幹をなす役割であり、これが欠けると正式に博物館とは言えません。後世のために貴重な標本を保管することは、大学や他の研究機関にはない、いわば博物館のアイデンティティーともいえる役割なのです。

そこで今回は、新収集品を紹介するとともに、博物館の「収集・保管」活動の一端を、「集める」、「受け継ぐ」、「見せる」に分け、わかりやすく紹介する機会にしたいと思います。

「集める」

学芸員はそれぞれの専門分野に応じて、化石、鉱物、植物、昆虫などなど、さまざまなものを「採集」します。採集したものがそのまま資料になるわけではありません。標本化という作業が必要です。たとえば地層の中から化石の一部が発見された時、岩盤から化石を含有した部分を取り出して運搬しクリーニングをする、菌類(きのこ)を凍結乾燥させ形態を保ったまま保存可能な状態にするといった作業です。展示では新収集品をご紹介しながら、その標本化の過程も紹介します。

ちなみに、個人が採集したものを「提供」し

集める



クマの全身骨格化石

平成26年秋に、埼玉県最奥の鍾乳洞から発掘したもの。今のツキノワグマより大きなクマが埼玉県に生息していたことが明らかになった。



ニホンオオカミのものと思われる歯も同時に発見されて話題になったぞ!



サルってヒトと手は似てるけど、脚はちがうんだね。



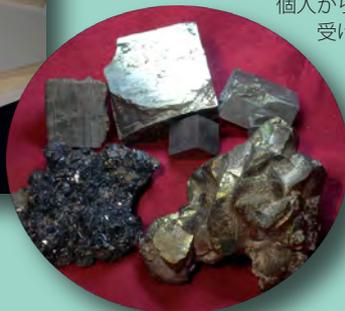
ニホンザル全身骨格標本

秩父郡横瀬町で獣害駆除された個体を譲り受け標本化した。



さく葉標本

平成18年から現在まで約7000枚を登録した。ホソバアブラツツジ(秩父郡皆野町)のタイプ標本※も含まれる。
※種の世界標準となる標本



秩父鉱山産鉱物標本

秩父鉱山坑道内から採取した非常に状態のよい標本。個人から提供を受けたもの。